

1. 実況上の着目点

- ① 本州付近は、日本の東を東へ移動する高気圧に覆われているが、高気圧の縁を回る下層暖湿気が流入する台湾付近と日本の南は気圧の谷となっており、東シナ海では非常に激しい雨を解析。
- ② 500hPa 5160m付近の寒冷渦に対応する低気圧が前線を伴って中国東北区を東北東進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧は、20日にかけて日本のはるか東へ移動し、後面の暖湿気が流れ込む西～東日本では大気の状態が不安定となる

所がある。一方、1項②の低気圧は19日夜までに閉塞し、閉塞点上に発生する低気圧が20日は間宮海峡付近からオホーツク海に進み、寒冷前線が21日にかけて北～東日本を通過する。また、500hPa 5760m付近のトラフに対応して、20日朝までに東シナ海で発生する低気圧が、西～東日本太平洋側を東北東進し、21日夜までに日本の東に進んで前述の寒冷前線と一体化する。これらの低気圧や前線に向かって、北～西日本では850hPaで+5～+10℃（平年差+10～+15℃）の下層暖気が流れ込む。このため、大気の状態が非常に不安定となり雷を伴って激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。西日本では21日にかけて、北～東日本では20～21日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。気温の上昇と降水によって雪解けの進む所もある。北～東日本の多雪地では20～21日は、融雪やなだれに注意。低気圧や前線の周辺及び高気圧の南縁では、やや強い風や強い風が吹き、波がうねりを伴って高くなりしける所がある。北～東日本では21日にかけて、西日本では21日は、強風や高波に注意。

② 500hPa 5820m付近の正渦度極大域の接近に伴い、20日朝までに1項①の台湾付近の気圧の谷に低気圧が発生し、南西諸島付近を東北東進して21日朝までに不明瞭化する。気圧の谷や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、激しい雨が降って大雨となる所がある。南西諸島では21日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。

③ 21日は、高気圧が華北から黄海付近に移動する。高気圧の南縁や高気圧と2項①の前線との間では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹いて、波がうねりを伴い高くなりしける所がある。南西諸島と西日本では21日は、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間)：沖縄100mm。② 降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。③ 波浪(明日まで)：北海道・東北3m。④ 高潮(明日まで)：大潮の時期、東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図